

1N-4

母語の言語特性を考慮した日本語誤り事例の検討(その2)

市井亮美

高木伸一郎

NTT情報通信網研究所

1 はじめに

コンピュータで中国語を母語とする留学生(略称:留学生)の作文を訂正するために、判断基準が必要である。判断基準に従って作文をチェックする際に、作文の誤りの特徴を把握する必要がある。現状では、明確な判断基準がないことと作文の誤りの特徴の把握ができないことが課題である。

この課題を解決するために、前回では修飾表現において留学生が日本語と中国語の名詞句構造<sup>[1]</sup>の相違点を明確にしていけないことにより、日本人と異なる傾向の表現を書いてしまうという仮説を立て、留学生が書いた文章の中に出現した「 $\alpha$ の $\beta$ 」という表現について検討した<sup>[2]</sup>。その検討では、「的」という中国語の修飾表現を示す助詞に注目した。

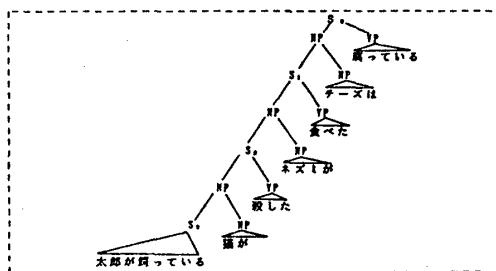
本稿では修飾表現の「 $\alpha$ 」の検討範囲を修飾単語から連体修飾節に広げ、中国語の「的」の付与条件と留学生の日本語表現との関連性を調べ、日本語と中国語の名詞句構造の相違点の明確化を目指す。

2 問題点

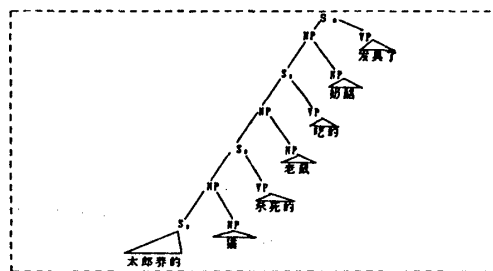
中国語の構文の特徴はSVOであると言われている<sup>[3]</sup>。一般的にSVO言語はその特徴として「右分かれ」的な構造を持つ傾向があると見られているが、次の比較に示すように日本語と中国語の名詞句は共に「左分かれ」の構造を持っている。

日本語: 太郎が飼っている猫が殺したネズミが食べたチーズは腐っている。<sup>\*1</sup>

中国語: 太郎养的猫杀死的老鼠吃的奶酪发臭了。



日本語



中国語

名詞句において中国語では通常修飾語と被修飾語の間に「的」という助詞を使う。それに対して、日本語ではそのような助詞を使わない。日本人と留学生が記述した異なる傾向の日本語表現に着目し、中国語の「的」の付与条件と留学生の日本語表現との関係を検討する。

3 検討

3.1 中国語の定語と構造助詞「的」との関係

中国語の文法では名詞を修飾するものを定語と呼び、その名詞を中心語と呼ぶ。定語の後ろに通常「的」が用いられるので、定語の印しと言われている。しかし、定語の音節数<sup>\*2</sup>と、中心語との関係によって「的」を用いるか否かが決まる<sup>[5]</sup>。ここでは以下の場合について考える。

中国語の定語が形容詞と動詞の場合、定語の後ろに用いられる「的」は以下の特徴がある。

- ① 定語(多音節の形容詞)+中心語の場合: 一般的に「的」を用いる。  
A + 「的」 + N (A: 形容詞 N: 名詞) 例: 漂亮的衣服(きれいな洋服)
- ② 定語(動詞)+中心語の場合: 一般的に「的」を用いる。  
V + 「的」 + N (V: 動詞) 例: 去的学生(行った学生)

3.2 日本語と中国語との対照

日本語を母語とする複数の人によって留学生の日本文を修正し、その結果を『修正された文』と呼ぶ。

中国語を母語とする複数の人によって、『修正された文』を中国語に訳した結果を『中国語訳文』と呼ぶ。修正された文から名詞句を抽出し、それに対応する中国語を中国語訳文から抽出する。

### 3.2.1 定語が多音節の形容詞の場合

修正された文の名詞句に対応する中国語が以下の場合について考える。

- ① 中国語のパターンが「定語+的+中心語」である 例：各種各様の希望
  - ② 定語は多音節の形容詞単語である 例：「各種各様」→多音節単語
- 上記①, ②の中国語表現に対応する日本語の名詞句の特徴を下記に示す。
- 留学生の日本語の名詞句のパターンは「 $\alpha$ の $\beta$ 」である。 例：いろいろの希望
  - 「 $\alpha$ 」は多音節単語である。 例：「いろいろ」→多音節単語

### 3.2.2 定語が動詞の場合

修正された文の名詞句に対応する中国語が以下の場合について考える。

- ① 中国語のパターンが「定語+的+中心語」である
  - ② 定語が主述連語<sup>\*)</sup>である
    - 例：他吃的奶酪 (彼が食べたチーズ) 「他吃」→主述連語
- 上記①, ②の中国語表現に対応する日本語の名詞句の特徴を下記に示す。
- 留学生の日本語の名詞句のパターンは「S'の $\beta$ 」である。 例：皆さんが出るの時
  - 「S'」はs v文(s:主語 v:述語)である。 例：「S'」→「皆さんが出る」

## 4 考察

中国語では定語の音節数によって、「的」を付与するか否かが決まる。修飾表現の「 $\alpha$ 」が多音節の時に、留学生が「 $\alpha$ 」の後ろに「の」を付けたがり、「 $\alpha$ の $\beta$ 」の表現を書くと考え。日本語では音節数によって、修飾語と被修飾語との接続方法が変わらないから、日本人と留学生が異なる傾向の表現を書いてしまうと考える。定語が主述連語になっている場合、中国語では定語と中心語の間に「的」が必要であるため、留学生が「S'」の後ろに「の」を付けて、「S'の $\beta$ 」表現を書いてしまうと考える。

## 5 今後の検討課題

- ① 中国語の「的」の付与条件と留学生の日本語表現との関係
  - 中国語の「的」を必ず付与する場合、留学生が修飾語の後ろに「の」を付けたがる傾向があると考えられる。中国語の「的」の付与条件の検討範囲を広げて、留学生の日本語表現との関係を検討する。
- ② 連体修飾節の時制と留学生の日本語表現との関係
  - 中国語の通常の文では、時制を示す表現が文中にない場合、その述語は完了していない動作・作用を表すという傾向がある。しかし、中国語の連体修飾節の場合では、時制を示す表現が文中にない場合、その述語は完了しているという傾向がある<sup>(\*)</sup>。このようなところに日本語と異なる点があるために日本人と留学生の日本語表現が違ってくると推測できるので、今後詳細に検討する。

注：

- \* 1 久野瞳『日本文法研究』P5の例を引用した。
- \* 2 中国語の場合、通常一文字は一音節になっている。
- \* 3 主述連語は目的語を含まないS V文である。

### 参考文献

- [1] 柴谷方良など 『日本語の分析』P16~P29 大修館書店
- [2] 市井亮美 高木伸一郎 「母語の言語特性を考慮した日本語誤り事例の検討」  
情報処理学会第43回全国大会 3-109
- [3] 大河内康憲 「中国語構文論の基礎」『講座日本語学10 外国語との対照I』P31 明治書院
- [4] 久野瞳 『日本文法研究』P4~P9 大修館書店
- [5] 中山時子など『新しい中国語語法』P59~P71 東方書店
- [6] 木村英樹 「中国語」『講座日本語学11 外国語との対照II』P19~P39 明治書院

謝辞 本検討のためにデータを提供して頂いた南山大学の坂本正助教授に感謝します。貴重なご意見を頂いたNTT情報研の白井論主任員と中沢恒子さんに感謝します。